

さくら第478号

令和元年10月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7: Ⅸ51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

とまか
自体的に動いて
ごらん
具体的に動いて
具体的な音が
出るから
おこし。

『漢字であそぶ』

日本の総理大臣が漢字を読み間違えたというニュースがずい分前に流れました。誰しも記憶違いやいい間違いはあるからそんなに目くじら立てることもないだろう、と思うのですが、相手が総理大臣ともなれば重大ニュースになるのだから、地位や肩書きがある人はよほど心して読み書きをせねばなりません、

ふだん使っている漢字ですが、自分ではまちがいないと思い使います。でも、時には本当に大丈夫かなと調べて見ることも必要です。辞書などめんどくさいと言うのなら、スマートホンやインターネットですぐ分かります。調べていると色々な言葉を発見して楽しくなることがよくあります。

さて、漢字は小学1年生で80字を学び、2年生で160字、3年生と4年生は200字、5年生が185字で6年生が181字の合計1006字を学習します。

漢字にはもともと同音異字のものが多く、中国から日本に伝わる時に中国語の読み方が、日本で読みやすいものに置き換えられたときに、中国語でにかよった音がまとめられ、同音異字の文字が多くなりました。

ほとんどの場合、字の意義、字義がことなるので同音異義となります。茶道は本来の読み方は江戸時代までは「ちゃどう」と読んでいたといいます。「さどう」は近代の新しい読み方です。茶道を表千家では「さどう」と言い、裏千家では「ちゃどう」と言うようです。

女王はNHKでは江戸時代からの伝統的な読み方で「じょおう」と発音するそうですが、今

まで気づかずにいましたので、今度、女王の字を「じょおう」と発音するか確かめます。

学校の「校」の字は部首が木偏で10画です。音読みはコウ、キョウで、訓読みはくらべる、かんがえる、あぜですね。

校倉(あぜくら)という言葉を知っていますね。正倉院の校倉造りです。読み方もいろいろあり知るとおもしろくなります。

料理番組などでよく見る字は出汁(だし)ですね。でじるなんて読まないですね。

汁という字は肉汁にくじゅう、果汁はかじるではなく、かじゅうと読みます、スマホで調べるとにくじるでも肉汁という漢字が出てくるので、しっかり確かめねばなりません。

慣用句というものがあり、間違った読み方でもそれを長年、多くの人が使いだすと、その読み方でもいい、という字があります。大勢の人が使い続けると、それでもいいとなるようです。

「重複・ちようふく」は、物事がいくつも重なりあっていることを表す言葉です。「じゅうふく」と読む人が多くなったので、今では「慣用読み」と言われるその呼び方になって、「じゅうふく」でもよいとされています。

「他人事・ひとごと」は、自分とは関係ない他の人のことです。また、関係ない物事にも使うことがあります。「たにんごと」と読んでしまいたくなりますが、正しくは「ひとごと」です。うっかりして、バカにされないようにしましょう。

思い込みという事があり、自分ではまちがっていない、正しいと信じ込んでいることがよくあります。人前ではじをかかないよう、確かめてみる必要があります。

「相殺・そうさい」も「そうさつ」と言ってしまうがちな言葉です。「殺」という字には、「ころす」という意味と「そぐ・へらす」という意味があり、古代中国語での発音がちがいました。日本の音読みでは、ころす⇒「サツ」、そぐ・へらす⇒「サイ」と読み分けてきました。

漢字にはその成り立ち、意味があります。調べるとおもしろい事が多く分かります。